

第 23 回日赤検査学術大会開催にあたって

第 23 回日赤検査学術大会

大会長 村住 敏伸

(神戸赤十字病院)



近畿ブロック担当の第 23 回日赤検査学術大会は新型コロナデルタ株の影響を受け、2022 年 9 月 10 日（土）11 日（日）へと一年延期を余儀なくされました。現在も会員の皆様には逼迫する医療現場において第一線で検査業務を担われている事と思います。本稿を書いている 9 月 17 日現在、本ウイルスの猛威は依然予断を許さない状況ですが、国内の全人口に占めるワクチン 2 回接種割合も 5 割を超え、来年初頭には 3 回目の接種も期待されており長い暗闇に光がさして参りました。今後の状況によっては現地の入場者制限や Web 発表を取り入れる事も踏まえながら、赤十字技師会本来の趣旨を貫き、メルパルク京都に於いて、なんとか集合形式で開催できればと願っております。

大会のテーマは「伝統と挑戦 知と技のクロス ～古都で考える現代とこれからの医療～」と題し、伝統ある京の都にて よき伝統は引き継がれながらも未来に向けてより質の高い検査が提供できるよう、新たな知識と技術の向上に挑戦しつづけ、未来の検査室を担う若い人たちにも希望がもてる大会にしたいと考えております。

教育講演としては、半世紀以上に亘り臨床検査技師の教育に携われてこられた鈴鹿医療科学大学副学長の長村洋一先生をお迎えし「臨床検査技師、この魅力的な職種の教育を振り返って期待すること」と題し、タスク・シェア/シフトを考える時代、今後担うべき職域なども含め私たちの将来に向けたご講演をお願いしております。

特別講演は、公益社団法人 認知症の人と家族の会 理事の鷺巣典代先生に「認知症になっても安心な社会～誰も取り残さない医療のために～」と題し、人生 100 年と言われる時代、いかに質の高い人生をおくる事が大切なのか、またそのために医療現場で求められている事は何か と言った内容でご講演をお願いしております。

また一日目のランチョンセミナーでは 京都百味会いもぼう平野家本家 14 代当主 北村眞純先生に京の食文化に因んだ興味深いお話をお願いしております。

京都は言わずと知れた世界が認めた歴史と文化の観光都市でもあります。この学術大会の前後にでも是非足を延ばして秋の京文化に触れて頂けたらと思います。

コロナの撲滅は不可能ですが、2022 年 9 月には with/after コロナ時代の新しいライフスタイルで日赤臨床検査技師の皆様と笑顔で再会でき親交の場となる、意義深い学術大会が開催できます事を期待し、京都第二赤十字病院の検査部スタッフの皆様、並びに近畿ブロック 10 施設の役員一同、全国からの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第 23 回日赤検査学術大会 学術大会企画予定

教育講演 9月10日(土)

「臨床検査技師

この魅力的な職種の教育を振り返って期待すること」

講師 鈴鹿医療科学大学 副学長 長村 洋一先生

特別講演 9月11日(日)

「認知症になっても安心な社会

～誰も取り残さない医療のために～」(仮)

講師 公益社団法人認知症の人と家族の会理事 鷺巣 典代先生

一般演題発表 9月10日(土)、9月11日(日)

ランチョンセミナー 9月10日(土)

「京の食文化と京名物いもぼう」

講師 いもぼう平野家本家14代当主 北村 眞純先生

日本赤十字社臨床検査技師会同窓会会議 9月10日(土)